

## GPS 安全性要約書

この GPS 安全性要約書は、化学物質を製造する企業の社会的責務として、化学産業界のグローバル製品戦略（Global Product Strategy：GPS）に基づいて当社が製造する化学製品のリスク評価結果に関する情報の概要を一般社会に提供するものです。

この文書は、ヒトの健康や環境への影響あるいはリスク評価の詳細等の専門的な情報を提供するものではありません。また、安全データシート(SDS)、または化学品安全性報告書(REACH CSR)などのリスク評価書に代わる文書として作成されたものではありません。記載内容は現時点で入手できる法令、資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、いかなる保証をなすものではありません。

### 物質名（SUBSTANCE NAME）

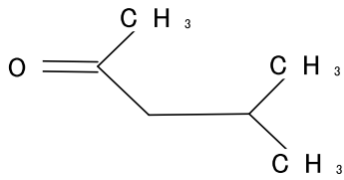
メチルイソブチルケトン（4-methyl-2-pentanone, CAS No. 108-10-1）

### 物質の概要（GENERAL STATEMENT）

メチルイソブチルケトンは、特有の臭いをもつ無色の液体である。合成樹脂塗料等に使用されている。皮膚刺激、眼刺激、吸入すると有害、発がんのおそれの疑い、呼吸器への刺激および眠気またはめまいのおそれ、長期または、反復暴露により臓器（消化器、中枢神経系）の障害、飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれがある。生分解しやすく、生物蓄積性は低いと考えられる。

製造時のサンプリングや移し変え作業等では適切な保護マスク、保護手袋の着用が推奨される。また、環境生物への影響を最小化するために、漏洩防止策を講じるとともに、定期的な監視や設備の保守点検が推奨される。

### 化学的特性（CHEMICAL IDENTITY）

項目	内容
一般名	メチルイソブチルケトン
商品名	メチルイソブチルケトン
化学名	Methyl isobutyl ketone（IUPAC名：4-methyl-2-pentanone）
CAS番号	108-10-1
その他の番号	官報公示整理番号(化審法, 安衛法)(2)-542 EC番号 203-550-1
分子式	$C_6H_{12}O$
構造式	
その他の情報 出典、備考	特になし 三菱ケミカル(株)発行のSDS 3項 参照

## 使用・用途と適用 (USES AND APPLICATIONS)

当社製品の主な用途 塗料、接着剤、抽出剤等

## 物理化学的特性 (PHYSICAL/CHEMICAL PROPERTIES)

特有の臭いの無色透明の液体である。

外観(物理的状态)	液体
色	無色
臭気	特有の臭い
比重(相対密度)	0.801
融点/沸点	-84.7 °C / 116.2 °C
可燃性/引火性	引火性が高い液体(区分2)
引火点	14 °C (密閉式)
燃焼または 爆発上下限界	7.5 vol % / 1.4 vol %
自己発火温度	460 °C
蒸気圧	2.64 kPa 25 °C
分子量	100.16
水溶解性	19100 mg/L 20 °C
オクタノール-水分配係数	LogKow : 1.31
出典・備考	三菱ケミカル(株)発行のSDS 9項 参照

## ヒト健康影響 (HEALTH EFFECTS)

皮膚刺激、眼刺激、吸入すると有害、発がんのおそれの疑い、呼吸器および眠気またはめまいへの刺激のおそれ、長期または、反復暴露により臓器(消化器、中枢神経系)の障害、飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれがある。

影響評価	結果 (GHS*1 危険有害性分類)
急性毒性(経口)	区分外*2
急性毒性(吸入-気体)	分類対象外*3
(吸入-蒸気)	吸入すると有害(区分 4)
(吸入-粉塵/ミスト)	分類できない*4
急性毒性(経皮)	区分外
皮膚腐食性/刺激性	皮膚刺激(区分 2)
眼に対する重篤な損傷 性/刺激性	眼刺激(区分 2B)
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	発がんのおそれの疑い(区分 2)
生殖毒性	区分外
特定標的臓器	呼吸器への刺激のおそれ、眠気またはめまいのおそれ(区分 3(気道刺激

(単回ばく露) 特定標的臓器 (反復ばく露) 吸引性呼吸器有害性 出典・備考	性、麻酔作用)) 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器(消化器、中枢神経系)の障害 (区分 1(消化器、中枢神経系)) 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ(区分 1) 三菱ケミカル(株)発行のSDS 2, 11項 参照 <small>*1 GHS: Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals。世界的に調和されたルールに従い、化学品を危険有害性の種類と程度により分類するシステム。          *2 区分外: 分類を行うのに十分な情報が得られており、分類を行ってみたいところGHSで規定する危険有害性区分において一番低い区分とする十分な証拠が認められなかった場合。          *3 分類対象外: GHSで定義される物理的性質に該当しないため、当該区分での分類の対象となっていないもの          *4 分類できない: 分類の判断を行うためのデータが全く、または分類するに十分な程度に得られなかった場合。</small>
--	--

## 環境影響 (ENVIRONMENTAL EFFECTS)

生分解しやすく、生物蓄積性は低いと考えられる。

<b>影響評価</b> 水生環境有害性(急性) 水生環境有害性(慢性) 出典・備考	<b>結果(GHS危険有害性分類)</b> 区分外 区分外 三菱ケミカル(株)発行のSDS 12項 参照
<b>環境運命・動態</b> 環境中の移行性 生分解性 生物蓄積性 PBT/vPvBの結論 出典・備考	<b>結果</b> 水系からの揮発性は低く、土壌への吸着性も高くないと考えられる。 良分解性 生物蓄積性は低いと考えられる。 PBT、vPvBに非該当である。 <small>*PBT: 環境中に残留性し、高い生物蓄積性と強い毒性を有する          *vPvB: 環境中に非常に残留性しやすく、非常に高い生物蓄積性を有する</small> 三菱ケミカル(株)発行のSDS 12項 参照

## ばく露 (EXPOSURE)

作業者ばく露、消費者ばく露、環境ばく露が主体となる。

<b>詳細</b> 作業者ばく露	<b>No.</b> 1-1	<b>当社製品の主な用途におけるばく露の可能性(ばく露経路)</b> 製造および使用時は、ばく露の可能性がほとんど存在しない閉鎖系での作業に用いられ、作業者に対してほとんどばく露の可能性がない。もしくは、管理されたばく露のある閉鎖系・連続プロセスでの作業において、メンテナンス、サンプリングおよび装置故障の際等に、閉鎖系バッチでの合成あるいは調合作業において、メンテナンス、サンプリングおよび装置故障の際等に、ばく露の機会のあるバッチおよびその他のプロセスでの作業において、メンテナンス、サンプリング、充填、排出および装置故障の際等に、作業者への経皮・吸入ばく露の可能性がある。
---------------------	-------------------	--

		<p>専用設備での船舶／大容量コンテナへの or からの物質や調剤の移し替え作業、流出を最小化するように設計された条件での小容量コンテナへの物質や調剤の移し替え作業において、塵/蒸気/エアロゾルの発生、流出、装置の清掃等に伴い、作業員への経皮・吸入ばく露の可能性はある。</p> <p>コーティング、表面クリーニング等のローラーあるいはブラッシング作業に用いられ、蒸気・小滴・はねの発生、拭き取り作業、塗布表面操作等に伴い、作業員への経皮・吸入ばく露の可能性はある。</p> <p>燃料原料としての物質の使用において、作業員への経皮・吸入ばく露の可能性はある。</p>
消費者ばく露	2-1	スプレー状の塗装剤、うすめ液、リムーバー等の製品として使用され、消費者への経皮・吸入ばく露の可能性はある。
環境ばく露	3-1	<p>産業における物質の製造工程、産業における調剤の調合工程から、主に大気及び水環境へ放出される可能性がある。また、化学反応で使用される溶剤、塗装の塗布に用いられる溶剤等の成形品の一部にならない加工助剤として産業で使用され、主に大気及び水環境へ多く放出されやすい。また土壌環境へも放出される可能性がある。</p> <p>消費者用や業務用の自動車と自転車の手入れ用品(つやだし、潤滑油、凍結防止剤)、塗装溶剤等、加工助剤として屋外で使用され、広範囲の大気及び水環境へ多く放出されやすい。また土壌環境へも放出されやすい。</p> <p>但し、当該物質はばく露の可能性のある管理された閉鎖系プロセスで製造されるので、製造時の環境への放出の可能性は極めて低い。また当該物質は常温及び常圧で液体であり、環境へ放出された場合は水系中に分配されると考えられるが、水系中では比較的速やかに分解することが予想される。</p>
注意事項		他の用途におけるばく露の可能性のある場合、推奨するリスク管理措置を参考に適切な措置を実施してください。

### 推奨するリスク管理措置 (RISK MANAGEMENT RECOMMENDATIONS)

吸入や皮膚、目への接触による健康への影響を最小化するために、サンプリングや移し替え作業の際は、吸入経路や経皮経路でのばく露を防止することが必要である。そのために、適切な保護マスク、および当該物質が浸透しない材料の衣類・保護手袋の着用が推奨される。

また、環境生物への影響を最小化するために、漏洩防止策を講じるとともに、定期的な監視や設備の保守点検が推奨される。

詳細	No.	当社リスク評価結果に基づく推奨する管理措置
対作業員ばく露	1-1	<p>サンプリングや移し替え作業の際は、適切な保護マスク、および当該物質が浸透しない材料の衣類・保護手袋を着用する。</p> <p>作業責任者は、作業員に適切な保護具の選択や正しい使用方法、または作業現場の管理方法などの教育をする。</p>
対消費者ばく露	2-1	製品の取扱説明書があれば、これに従って使用する。
対環境ばく露	3-1	<p>適切な排水処理施設、適切な排ガス処理施設を設置する。漏洩防止策を講じ、定期的な排出量の確認、日常管理、取り扱いに注意を払う。</p>

**その他取扱注意事項** なし  
**注意事項** 通常での取扱い、緊急時対応、廃棄時、輸送時の管理措置は、三菱ケミカル(株)発行のSDSの4, 5, 6, 7, 8, 13, 14項を参照して下さい。

(注)No.は「ばく露」記載箇所にある、それぞれの「ばく露の可能性」に対する管理措置を記載している。

## 政府機関のレビュー状況 (STATE AGENCY REVIEW)

評価書	レビュー状況
OECD HPV	<a href="http://www.inchem.org/documents/sids/sids/108112.pdf">http://www.inchem.org/documents/sids/sids/108112.pdf</a>
NITE 化学物質の初期リスク評価書	該当情報なし
環境省 化学物質の環境リスク初期評価	<a href="http://www.env.go.jp/chemi/report/h18-12/pdf/chpt2/2-2-2-47.pdf">http://www.env.go.jp/chemi/report/h18-12/pdf/chpt2/2-2-2-47.pdf</a> <a href="http://www.env.go.jp/chemi/report/h19-03/pe/02-20.pdf">http://www.env.go.jp/chemi/report/h19-03/pe/02-20.pdf</a>
REACH	<a href="http://apps.echa.europa.eu/registered/registered-sub.aspx">http://apps.echa.europa.eu/registered/registered-sub.aspx</a>

## 法規制情報／ラベル情報

### (REGULATORY INFORMATION / LABELLING INFORMATION)

#### 主な法規制情報

法律	規制状況
国連分類	3
国連番号	UN 1245
消防法	危険物 第四類 引火性液体 第一石油類 非水溶性液体 危険等級II
船舶安全法	引火性液体類
毒物及び劇物取締法	非該当
化審法	優先評価化学物質
労働安全衛生法	表示義務対象物質(法56, 57条) 文書交付義務対象物質(法57条の2) 特定化学物質等障害予防規則 第2類物質 特別有機溶剤等 特定化学物質等障害予防規則 特別管理物質 健康障害防止指針 健康障害防止指針公表物質
化学物質管理促進法	非該当
航空法	輸送許容物件 引火性液体
その他の法令	特定悪臭物質(施行令第1条) 特定悪臭物質 海洋汚染防止法:有害液体物質(ばら積み) 有害液体物質:Z類物質(施行令別表1)

#### ラベル情報

絵表示またはシンボル



**注意喚起語**  
**危険有害性情報**

**危険**  
 ・ 呼吸器への刺激の恐れ

## 注意書き

- ・ 眠気またはめまいのおそれ
- ・ 引火性の高い液体および蒸気
- ・ 吸入すると有害
- ・ 皮膚刺激
- ・ 眼刺激
- ・ 発がんのおそれの疑い
- ・ 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器(消化器、中枢神経系)の障害
- ・ 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ

## [安全対策]

- ・ 使用前に取扱説明書入手すること。
- ・ 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・ 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。—禁煙。
- ・ 容器を密閉しておくこと。
- ・ 容器を接地すること/アースを取ること。
- ・ 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること。
- ・ 火花を発生しない工具を使用すること。
- ・ 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
- ・ 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
- ・ 取り扱い後は手をよく洗うこと。
- ・ この製品を使用する時に飲食または喫煙をしないこと。
- ・ 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
- ・ 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

## [応急処置]

- ・ 飲み込んだ場合:直ちに医師に連絡すること。
- ・ 皮膚に付着した場合:多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。
- ・ 皮膚(又は髪)に付着した場合:直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
- ・ 吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・ 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・ ばく露またはばく露の懸念がある場合:医師の診断/手当を受けること。
- ・ 気分が悪い時は医師に連絡すること。
- ・ 気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること。
- ・ 無理に吐かせないこと。
- ・ 皮膚刺激が生じた場合:医師の診断/手当てを受けること。
- ・ 眼の刺激が続く場合:医師の診断/手当てを受けること。
- ・ 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- ・ 火災の場合:消火するために適切な消火剤を使用すること。

## [保管]

- ・ 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
- ・ 施錠して保管すること。
- ・ 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

## [廃棄物]

- ・ 内容物/容器は、国際、国、都道府県、又は市町村の規則に従って廃棄すること。

**連絡先 (CONTACT INFORMATION WITHIN COMPANY)**

会社名	三菱ケミカル株式会社
住所	東京都千代田区丸の内1-1-1 パレスビル
担当部門・担当者	フェノール・ポリカーボネート事業部
電話番号/FAX番号	03-6748-7128/03-3286-1191

**発行・改訂日 (DATE OF ISSUE / REVISION) その他の情報 (ADDITIONAL INFORMATION)**

初版: 2017年 4月 26日発行  
特記事項: 2018年12月27日 第二版発行